

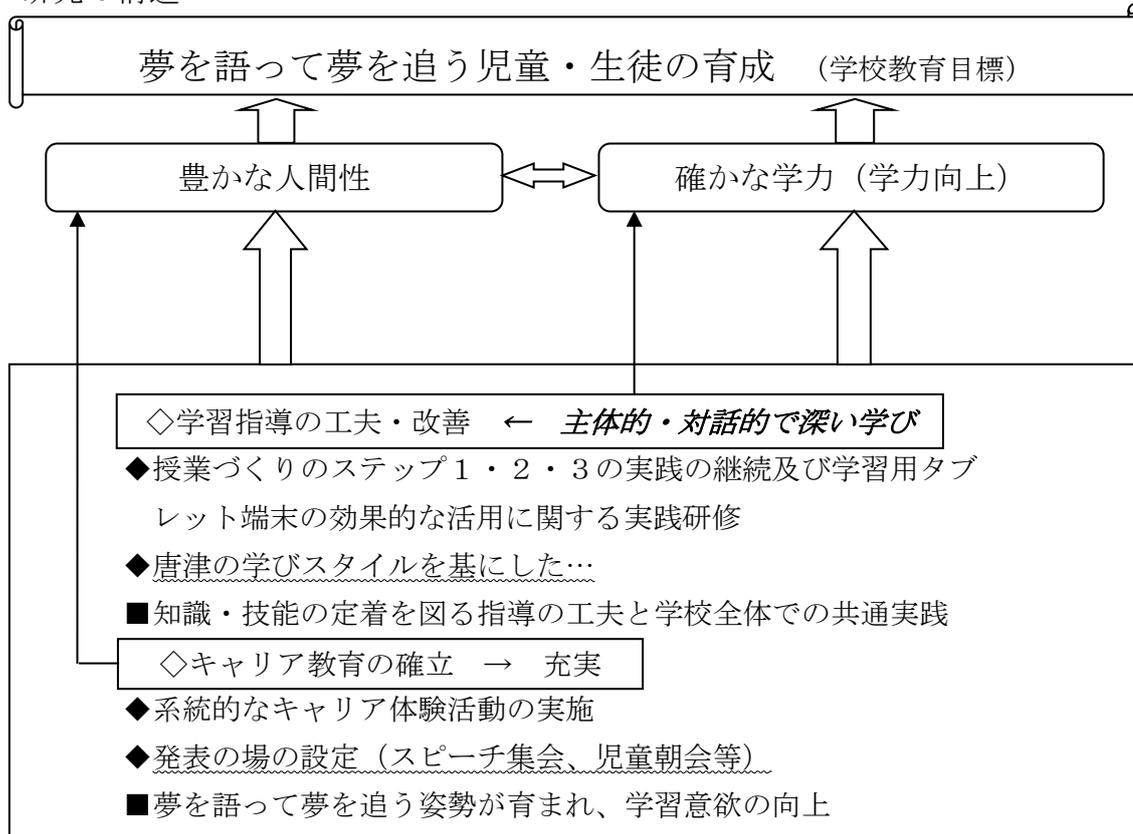
<令和5年度校内研究計画>

① 校内研究計画

ア 研究主題

「夢や目標の実現に向けて、自己表現力を高める教育活動の充実」
～小中のつながりを意識した活動を通して～

イ 研究の構造



ウ 研究仮説

①児童・生徒が発表する場を設定する、②唐津の学びスタイルを使った共通実践を9年間で行う、③9年間を見通した系統的な体験活動を各学年で行う(生活科・総合的な学習の時間)をすれば、豊かな人間性の醸成と学力(基礎・基本の力)の向上を図ることにつながるであろう。

※「確かな学力」とは、「基礎・基本の力」であり、豊かな人間性や社会性を身に付け、意欲を持って主体的に取り組む力、協力し合い、学びの場を創造する力、課題を見つけ、探求し、最適な問題解決方法を目指す力(たくましく生きぬく力)と考える。

エ 主題設定の理由

本校は、3つの小規模校が統合して開校した中学校と既存の小学校との併設校である。学校は農地と牧場が広がる上場台地であって、地域の基幹産業は農畜産業や漁業であり、第一次関連産業に従事する人々の割合が高い。生徒たちは純朴で、お互いが協力し、学校行事や学級活動などに意欲的に取り組む姿勢が見られる。

併設校でありながら、中学校は小学校と通学地域や生徒数などが違い、様々な面で小・中の一体性や連続性を難しくする現状がある。こうした中であって、小・中が連携できる場所は最大限に連携し合いながら、これまで課題とされてきた学び合い、切磋琢磨する態度、主体的に学習に取り組む姿勢を引き出したい。

そこで、小・中連携のキャリア教育を推進し、「授業づくりのステップ1・2・3」と唐津市の「学力向上アクションプラン」を軸とした学習指導の工夫・改善及び学習用タブレット端末の利活用を図ることにより、さらに児童・生徒一人ひとりの基礎・基本の定着が図られ、将来の見通しを持って高い意識で学習に取り組む姿勢が養われるとともに、自立意識の涵養及び豊かな人間性の育成を図ることができるのではないかと考え、この主題を設定した。

オ 研究の目標

- 「授業づくりのステップ1・2・3」と「学力向上アクションプラン」の実践に随時取り組む。
 - ・ 「言語活動の充実」を図ることで、表現力やコミュニケーション力を高める。
 - ・ 児童・生徒の実態に応じた学習指導の工夫・改善を通して、確かな学力の定着を図る。
- キャリア教育の充実
 - ・ 望ましい職業観・勤労観を身に付けさせ、児童・生徒が将来に見通しを持ち、主体的に学習に取り組む態度を培う。
- 学習用タブレット端末の利活用
 - ・ 学習用タブレット端末を活用した授業づくりに取り組むことにより、どのような単元や場面で活用したほうが児童生徒の理解力や思考力が高まるのかを実践を通して検証していく。

カ 研究の方法

児童・生徒の学力向上を図るために、「授業づくりのステップ1・2・3」と「学力向上アクションプラン」に則り、知識・技能の定着を目指した学習指導のあり方を随時検討し実践する。また、学習用タブレット端末の利活用など多様な手法を駆使した思考力・判断力・表現力を問う活動（言語活動の充実や体験的・最適な問題解決方法の検討等）を授業に多く取り入れることで、表現力やコミュニケーション力を高めるとともに、主体的・協働的に学ぶ学習を通して、学習意欲を向上させ、学力向上につなげたい。

次に、小学校から行うキャリア教育を研究するとともに、将来の生き方やキャリアマナー育成のために、望ましい職業観・勤労観を身に付けさせたい。また、自己の個性を理解したうえで、主体的に進路を選択する能力や態度を育て、学びの動機づけと活力ある学習や生活への取り組みを支援する。